

# 「～込む」「～込める」「～詰める」「～入れる」の前項動詞の特徴について

陳 麗麗

キーワード： 複合動詞、前項動詞、コーパス、類義語、内部移動

## 1. はじめに

本稿は「内部への移動」を表す日本語の複合動詞「～込む」「～込める」「～詰める」「～入れる」の前項動詞(V1)の特徴を見たものである。<sup>1</sup>

## 2. 先行研究

「～込む」に関する研究は姫野(1999)、松田(2004)が挙げられる。姫野(1999)では「～込む」以外に「～込める」「～いる」「～入れる」、松田(2004)では「～込める」「～入れる」に関しても記述がある。以下、その要点をまとめておく。

### 2.1 姫野(1999)

- ・ 「～込む」と「～込める」

- (1) 雨が中に降り込む。
- (2) 雨が人を降りこめる。

「こむ」が主体あるいは対象の着点への移動そのものに重点を置いているのに対し、

---

<sup>1</sup> 複合動詞の後項を指す時、「～込む」と「～こむ」のような二つの表記がある。本稿では、「～込む」という表記を採用する。ただし、引用の場合には、引用文献のなかで用いられた表記をそのまま用いる。「～込める」、「～詰める」、「～入れる」も同様である。

「こめる」は、内部にとどまらせるという点に重点がある。(姫野 1999:75)

・「～込む」と「～入(い)る」

(3) 話を聞きこむ。

(4) 話を聞きいる。

「いる」の方向が常に対象に向かっている(話に聞きいる＝話に対し関心を注ぐ)のに対し、「こむ」の方向は単純ではなく、主体自身に向かうこともある(話を聞きこむ＝話を自分のものとする)。(姫野 1999:78)

・「～込む」と「～入れる」

(5) 子を懐に抱えこむ。

(6) 子の中に抱えいれる。

「こむ」の用法が複雑なのに対し(抱えこむ＝主体に近づける、刈りこむ＝対象の領域侵入、乗りこむ＝主体の移動など)、「いれる」は、常に対象をある場へ移動させるということを示しており、複合動詞として構成が単純であることが分かる。(姫野 1999:78)

## 2.2 松田(2004)

松田(2004)は「～こむ」について、移動先を表す「二格」を伴う用法と「二格」を伴わない用法の二つに大別した。次に、「二格」を伴う「～こむ」については V1が「内部移動」を含意するか含意しないかによって A タイプと B タイプに分け、「二格」を伴わない「～込む」については C タイプと D タイプに分けた。(表1)

表 1 松田(2004)による「～こむ」の分類

| 二格を伴う「～こむ」      |                  | 二格を伴わない「～こむ」         |                           |
|-----------------|------------------|----------------------|---------------------------|
| A タイプ           | B タイプ            | C タイプ                | D タイプ                     |
| V1は「内部移動」を含意しない | V1自体が「内部移動」を含意する | V1が示す状態への変化とその状態への固着 | V1の反復行為により生じる状態変化(目標に向けて) |
| 例) 飛びこむ<br>呼びこむ | 例) 入りこむ<br>植えこむ  | 例) 冷えこむ<br>眠りこむ      | 例) 十分に走りこむ                |

・「～こむ」と「～いれる」

「～こむ」と「～いれる」の意味的差異が問題となるのはAタイプである。AタイプはV1に内部移動の意味が含意されておらず、「～こむ」と結合することによって初めて内部移動の意味が生じる。その場合、「～こむ」と「～いれる」が非常に接近した意味をあらわすこともあり、「～こむ＝～いれる」と理解しがちである。

(7) 「男が店内に発煙筒を投げこんだ」と110番があった。

(8) 東京・歌舞伎町のビデオ店に爆発物を投げ入れたとされる栃木県立高校二年の男子生徒(17歳)は、夏の終わりにこんなことを同級生に言っていた。

・「～こむ」と「～こめる」

(9) 人を車に押しこむ。

(10) 人を車に押しこめる。

「押しこむ」は「 $\alpha$ 」が焦点化されるが、背後に「 $\beta$ 」を持っている。一方、「押しこめる」は、「 $\alpha$ 」＝「 $\beta$ 」であり、「外に出られないようにする」(難可逆的領域 Y に入れる)ことを意味する。「部屋に閉じこめる」「雨に降りこめられる」など「～こめる」は、いずれも「外に出られなくする(される)」ことを表している。(松田 2004:80)

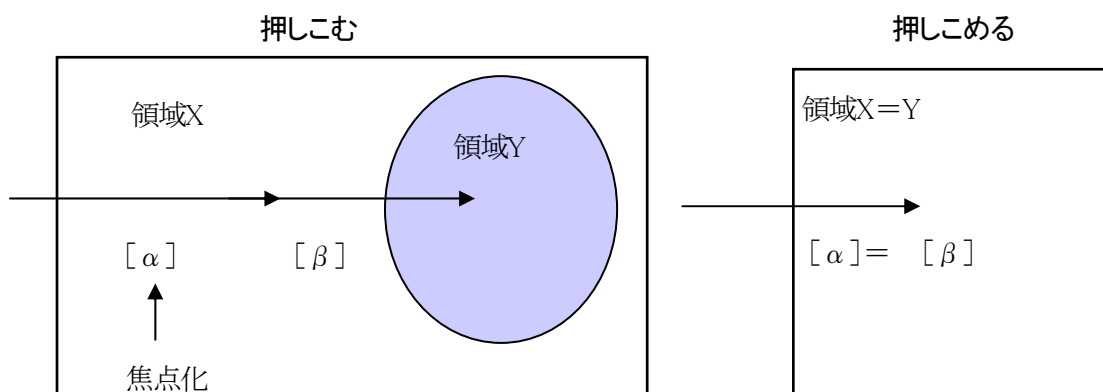


図1 松田(2004)による「押し込む」と「押し込める」の図

「～込む」「～込める」「～詰める」「～入れる」はいずれも「内部への移動」を表すが、いかなる前項動詞と共起しやすいかは不明確である。そこで本稿では、以下のようにインターネットの WWW ページをコーパスとして使用して、「～込む」「～込める」「～詰める」「～入れる」の前項動詞の特徴について見る。

検索エンジン: goo のフレーズ検索 (<http://www.goo.co.jp/>)

検索日: 2008 年 10 月 1 日～2008 年 11 月 30 日

検索対象: 『日本語基本動詞用法辞典』(大修館書店)を参考に筆者の選んだ 852 語と下記「～込む」「～込める」「～詰める」「～入れる」の結合を検索した。

表記: 「～込む」「～込める」「～詰める」「～入れる」は漢字表記のみ検索した。それぞれ「する、した、して、しない、しなかった、します、しました、しません」形のヒット数を調べた。以下の表の数字はそのヒット数を合計した数である。

### 3. 「～込む」の前項動詞の特徴

本稿では松田(2004)に従って移動先を表す「ニ」格を伴うか伴わないかによって、内部移動を表す「～込む」と状態変化を表す「～込む」の二つに大別する。内部移動を表す「～込む」はさらに「対象の内部移動」を表す A タイプと「主体の内部移動」を表す B タイプに分けられ、状態変化を表す「～込む」はさらに「対象の状態変化」を表す C タイプと「主体の状態変化」を表す D タイプに分けられる(表 2)。

表2 「～込む」の意味分類

|    | 内部移動を表す「～込む」  |  | 状態変化を表す「～込む」                             |   |
|----|---|--|--|---|
|    | A タイプ   | B タイプ  | C タイプ                                    | D タイプ   |
| 意味 | 対象の内部移動を表す  | 主体の内部移動を表す                                   | 対象の状態変化を表す                               | 主体の状態変化を表す  |
| 特徴 | ①「ニ格」を伴う<br>②V1が他動詞である                                | ①「ニ格」を伴う<br>②V1が自動詞である                       | ①「ニ格」を伴わない<br>②V1が他動詞である                 | ①「ニ格」を伴わない<br>②V1が自動詞と他動詞である                      |
| 例文 | ボールをゴールに<br>投げ込む<br>人を車に押し込む<br>穴に木を植え込む<br>穴に死体を埋め込む | 人が穴に落ち込む<br>雨が家に降り込む<br>友達の家泊まり込む<br>住宅に暴れ込む | おでんを煮込む<br>筋肉を鍛え込む<br>お金を使い込む<br>お金を貯め込む | 彼は老け込んだ<br>一日中考え込んでいる<br>気温が冷え込む<br>一日 100 球を投げ込む |

ここで、「～込む」と共起する動詞のうち上位 20 語を取り上げる。(表 3)

表3 「～込む」のヒット数(上位 20 語)

|    | V1   | ヒット数       |    | V1   | ヒット数      |
|----|------|------------|----|------|-----------|
| 1  | 絞り込む | 98,230,000 | 11 | 包み込む | 8,646,000 |
| 2  | 書き込む | 42,500,000 | 12 | 巻き込む | 8,480,000 |
| 3  | 申し込む | 18,000,000 | 13 | 入り込む | 8,100,000 |
| 4  | 落ち込む | 14,490,000 | 14 | 打ち込む | 7,467,000 |
| 5  | 取り込む | 13,650,000 | 15 | 埋め込む | 5,416,000 |
| 6  | 読み込む | 13,618,000 | 16 | 煮込む  | 5,020,000 |
| 7  | 持ち込む | 12,440,000 | 17 | 追い込む | 4,970,000 |
| 8  | 差し込む | 12,251,000 | 18 | 飲み込む | 4,660,000 |
| 9  | 乗り込む | 11,200,000 | 19 | 押し込む | 3,375,000 |
| 10 | 飛び込む | 8,860,000  | 20 | 食い込む | 3,132,000 |

前項動詞 V1が他動詞である場合、(11)、(12)のように「対象の内部移動」あるいは「対象の状態変化」をあらわすのに対し、(13)、(14)のように前項動詞 V1 が自動詞である場合、「主体の内部移動」あるいは「主体の状態変化」をあらわす。(11)は「投げる」という動作によって、対象の「ボール」を移動先の「ゴール」に移動させるという意味が生じ、(12)は「煮る」という動作によって、対象の「おでん」がある状態に変化することを表す。一方、(13)は主体の「人」が「穴」に移動するという意味が生じ、(14)は主体の「人」がある状態へ変化することを表す。

(11) ボールをゴールに投げ込む。

(12) おでんを煮込む。

(13) 人が穴に落ち込む。

(14) 彼は老け込んだ。

また、(15)、(16)のように前項動詞 V1が「挿入」<sup>2</sup>あるいは「進入」<sup>3</sup>の意味を含意しない場合は、ある移動領域の内部への移動を表す。「編む」、「飛ぶ」はいずれも動詞自体にはある移動領域に入るという意味はなく、「～込む」の形になってはじめてある移動領域への内部

<sup>2</sup> 本稿でいう「挿入」の意味を含意する動詞とは、「植える」、「埋める」、「詰める」などある移動領域に対象を入れることを表すものを指す。一方、「挿入」の意味を含意しない動詞とは、「編む」、「押す」、「投げる」、「引く」のように対象に力を加える意味を表すが、必ずしもそれによって対象の内部移動を表さない動詞を指す。

<sup>3</sup> 本稿でいう「進入」とは、「埋まる」、「入る」、「住む」、「泊まる」などのようにある移動領域に入ることを表し、移動行為よりある場所に入って止まっている状態に注目するものを指す。一方、「進入」の意味を含意しない動詞とは、「落ちる」、「飛ぶ」、「降る」、「走る」のようにただ主体の移動行為を表すものを指す。

移動の意味が生じる。

(15) お母さんはセーターに花の模様を編み込む。

(16) 鳥が家の中に飛び込む。

これに対し、次の(17)、(18)のように前項動詞 V1が「挿入」あるいは「進入」の意味を含意する場合は、V1が表す状態への固着という意味あるいはその移動領域への固着を表す。「埋める」、「植える」、「入る」は、それ自体は対象あるいは主体の移動を表すに過ぎない。これに対し、「埋め込む」、「植え込む」、「入り込む」のように「～込む」の形を取ると、対象あるいは主体が移動領域に固着され、動かずに留まるという意味になる。

(17) 死体を土の中に埋め込む。

(18) 泥棒が店の中に入り込む。

また、前項動詞 V1が無意志的な動詞である場合は、主体自身の状態変化を表す。この用法はV1の特徴によって大きく次の五つに分類される。

① V1が有情物の生理現象を表す場合

例:彼はすっかり老け込んだ。

(「老ける」は有情物が「年を取る」という生理現象を表し、「込む」と結合すると「すっかり年をとる」という意味を表す。つまり、主体が「老ける」という状態に深く落ち込んで、もう出られないことを表す)

② V1が有情物の心理現象あるいは思考活動を表す場合

例:彼はお金がなくて困り込む。

(「困り込む」は「主体がどうしてよいか分からず苦しむ」という状態に落ち込んで、もうこれ以上ひどく困ることはないことを表す)

③ V1が有情物の感覚・感情を表す場合

例:彼は彼女に惚れ込んだ。

(「惚れ込む」は「相手に深く好意を持っている」という意味であり、「惚れる」という状態に落ち込んで、主体が相手に対する感情がどんどん深くなるということを表す)

④ V1が非情物の状態変化を表す場合

例:外は雪が降り、部屋の中は冷え込んだ。

(「冷え込む」は「温かみを感じないぐらい気温がさがる」という意味を表す)

⑤ その他

例:友達とすっかり話し込んでしまった。

(「話す」は意志的な動詞であるが、「話し込む」は無意志的な行為になる。「話し込む」は「主体が話に夢中になり、他のことをもう考えない」という状態に落ち込んでいることを表す)

なお、本稿のコーパス調査の結果を見ると、「怒り込む」「恐れ込む」「驚き込む」「喜び込む」「楽しみ込む」などの感情を表す動詞は一件も出現しなかった。

#### 4. 「～込める」の前項動詞の特徴

次に、「～込める」の前項動詞について見る。「～込める」のヒット数上位 15 語を示すと表 4のとおりになる。

表4 「～込める」のヒット数(上位 15 語)

|   | V1    | ヒット数    |    | V1    | ヒット数   |
|---|-------|---------|----|-------|--------|
| 1 | 閉じ込める | 649,000 | 10 | 入れ込める | 15,724 |
| 2 | 取り込める | 569,400 | 11 | 塗り込める | 12,700 |
| 3 | 封じ込める | 350,000 | 12 | 縫い込める | 1,783  |
| 4 | 引っ込める | 271,000 | 13 | 言い込める | 1,066  |
| 5 | 立ち込める | 196,500 | 14 | 降り込める | 470    |
| 6 | 押し込める | 136,000 | 15 | たき込める | 311    |
| 7 | やり込める | 104,730 |    |       |        |
| 8 | 引き込める | 42,120  |    |       |        |
| 9 | 垂れ込める | 28,400  |    |       |        |

①V1が他動詞の場合、「V1+込める」も他動詞となり、対象をある領域へ移動させることを表す

(19) 犯人を地下室に閉じ込める。

(20) 人を狭い部屋に押し込める。

(19)、(20)の「閉じる」、「押す」は他動詞で、「閉じ込める」、「押し込める」も他動詞となる。いずれも対象である「犯人」、「人」を「地下室」、「部屋」という領域へ移動させることを表し、V1は移動の手段を表す。この点で、「V1+込む」のAタイプと共通している。同様に、(21)の「塗り込める」は「塗って穴を閉じ込める」という意味を表し、対象である「泥」を「壁」という

領域へ移動させることを表す。

(21) 泥を壁の穴に塗り込める。

②V1が自動詞の場合、「V1+込める」も自動詞となり、主体がある領域へ移動することを表す

(22) 異臭が部屋に立ち込める。

(23) 灰色の雲が町に垂れ込める。

(22)、(23)の「立つ」、「垂れる」は自動詞であり、「たち込める」、「垂れ込める」も自動詞となる。主体としての「異臭」、「灰色の雲」が「部屋」、「町」という領域へ移動することを表し、その移動領域に充満することを表す。

③その他

「やり込める」、「言い込める」は V1の行為によって相手を窮地に追いつめてそこから出られないようにすることを表す。そのため両者は「閉じ込める」から派生した意味であると考えられる。

(24) 子供が大人をやり込めた。

(25) 相手をすっかり言い込めた。

### 「～込む」と「～込める」の相違点

①「～込む」は V1が「挿入」あるいは「進入」の意味を含意する場合は、その移動領域に留まることを表し、V1が「挿入」あるいは「進入」の意味を含意しない場合は、単にある移動領域への移動を表すことに焦点がある(図2)。一方、「～込める」は、単なる内部移動にとどまらず移動領域への「固着」を表すことに焦点がある(図3)。

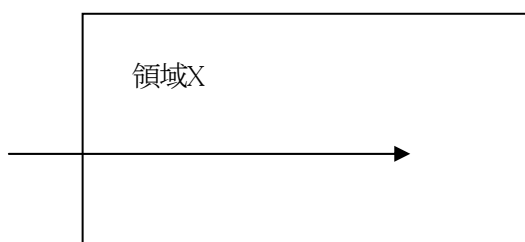


図2 内部移動を表す「～込む」

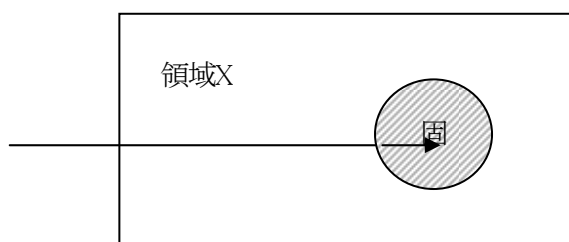


図3 内部移動を表す「～込める」

このことは(26)、(27)のように、「塗り込む」は対象をある領域の奥まで入れることを表すのに対し、「塗り込める」は「塗る」という行為によって対象である「薬」を移動領域である「手」に



閉じ込めて、そこから出られないようにすることを表すことから分かる。

(26) 傷薬を手を{塗り込む/\*塗り込める}

(27) 死体を壁の中に{\*塗り込む/塗り込める}。

また、(28)の「押し込む」は客をバスに入らせるために「押す」という行為が強調され、(30)の「押し込める」は「押す」という行為よりは、対象である「客」をバスの中に留まらせることの焦点が当てられると考えられる。

(28) すしづめのバスに客を押し込む。

(29) すしづめのバスに客を押し込める。

②「立ち込む」と「立ち込める」、「垂れ込む」と「垂れ込める」は V1に同じ動詞が来るが、先の例とは違い、意味的に対応していない。(30)の「立ち込む」は人馬、車馬などが一つのところに多く入り込んで、混雑する状態を表す。一方、(31)の「立ち込める」は霧が川にこもっている状態を表す。

(30) 人馬、車馬などが町に所なく立ち込んでいる。

(31) 川に霧が立ち込めている。

また、(32)の「垂れ込む」は下にあるものの中に入ることを表すが、(33)の「垂れ込む」は「密告する」という意味である。(34)の「垂れ込める」は雲が空にこもっている状態を表す。

(32) 物が水面に垂れ込んだ。<sup>4</sup>

(33) 犯人は自分の仲間を警察に垂れ込む。

(34) 雲が低く垂れ込めた空。

## 5. 「～詰める」の前項動詞の特徴

次に、「～詰める」の前項動詞について見る。「～詰める」のヒット数上位 17 語を示すと表 5のとおりになる。「～詰める」の V1にほとんど他動詞が来る。

<sup>4</sup> 広辞苑(第5版)によると、「垂れ込む」は「下にあるものの中に入れる」という意味がある。

表5 「～詰める」のヒット数(上位17語)

|   | V1    | ヒット数    |    | V1    | ヒット数    |
|---|-------|---------|----|-------|---------|
| 1 | 追い詰める | 788,950 | 10 | 思い詰める | 230,500 |
| 2 | 突き詰める | 478,000 | 11 | 張り詰める | 212,700 |
| 3 | 問い詰める | 463,280 | 12 | 煎じ詰める | 24,550  |
| 4 | 煮詰める  | 455,000 | 13 | 食い詰める | 22,860  |
| 5 | 敷き詰める | 326,500 | 14 | 押し詰める | 21,100  |
| 6 | 切り詰める | 297,000 | 15 | 言い詰める | 2,303   |
| 7 | 上り詰める |         | 16 | 書き詰める | 2,138   |
| 8 | 見詰める  | 285,400 | 17 | 取り詰める | 2,104   |
| 9 | 通い詰める |         |    |       |         |

## ①内部移動を表す「～詰める」

V1が主体の行為を表す動詞の場合、「V1+詰める」は対象をある領域へ移動させることを表す。この場合、「～詰める」には二つの意味がある。一つは対象をある領域の限界まで移動させることを表す用法で、もう一つは対象を隙間なく入れることを表す用法である。

まず、最初の「対象をある領域の限界まで移動させることを表す用法」は図4のように図示することができる。

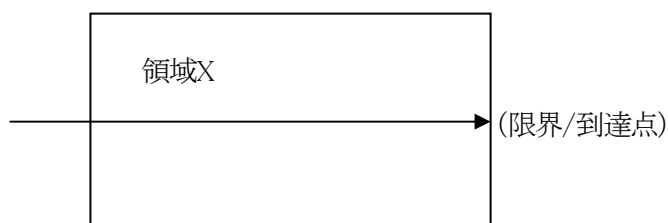


図4 内部移動を表す「～詰める」

これには(35)や(36)のような例がある。(35)の「追い詰める」はこれ以上逃げられないところまで対象を追いやることを表し、(36)の「押し詰める」は対象をこれ以上身動きできない位置まで追いやることを表す。「追い詰める」は「～詰める」の基本的な意味であり、他の用法は「追い詰める」から派生した意味であると考えられる。

(35) 犯人を袋小路に追い詰める。

(36) 人を壁ぎわに押し詰める。

一方、もう一つの「対象を隙間なく入れることを表す用法」は図5のように図示することが

できる。

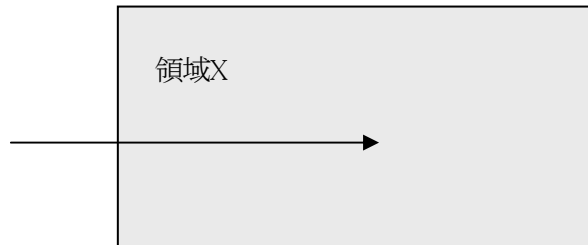


図5 内部移動を表す「～詰める」

これには(37)や(38)のような例がある。(37)の「書き詰める」は余白がないまでに書くことを表し、(38)の「敷き詰める」はござをある場所に隙間がないぐらいに敷くことを表す。

(37) 一枚の紙に彼の名前を書き詰める。

(38) ござを敷き詰める。

#### ②対象の状態変化を表す「～詰める」

V1が他動詞の場合、「V1+詰める」は主体の繰り返し行為あるいは時間の累積による対象の状態変化を表す。(39)の「煮詰める」は「煮る」という行為の繰り返しによって、煮汁がなくなるという状態変化を表す。

(39) 豆をとろ火でゆっくり煮詰める。

#### ③主体の状態変化を表す「～詰める」

V1が「見る」、「問う」のように主体の行為を表す他動詞の場合、「V1+詰める」は対象の変化ではなく、主体自身の状態変を表す。また「思う」、「(気持ち)が張る」のように主体の状態を表す動詞の場合、「V1+詰める」は主体の状態変化を表す。

##### ・V1が主体の行為を表す動詞の場合

(40)の「見詰める」はじっと見ることを表す。(41)の「問い詰める」は最後まで詰問することを表す。

(40) 彼女は穴のあくほど彼のこと見詰める。

(41) 彼女は最後まで彼を問い詰める。

##### ・V1が主体の状態を表す動詞の場合

(42)の「思い詰める」は「思う」状態が進行して深く思うことになることを表す。(43)の「張り

詰める」は、「気持ちを張る」という状態が進行して極度に緊張することを表す。

(42) 彼は一本気で、思い詰めるとなにをしでかすかわからない。

(43) 気持ちを張り詰める。

### 「～込む」と「～詰める」の相違点

①「～込む」と「～詰める」は同じ「ある移動領域の中に移動する」ことを表すが、「～込む」は「内部移動」に焦点があるのに対し(図6)、「～詰める」は「その移動領域に入って、そこを詰める」ことに焦点がある(図7)。

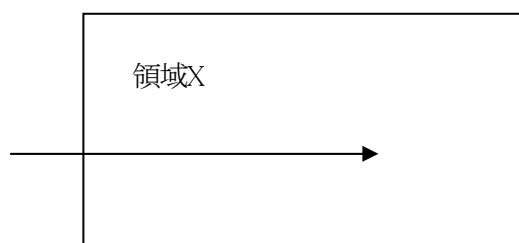


図5 内部移動を表す「～込む」



図6 内部移動を表す「～詰める」

これには(44)や(45)のような例がある。(44)は同じ紙に書き入れることを表すが、「書き込む」はただ記入することを表し、「書き詰める」は余白がないまでに書くことを表す。また、「書き込む」は一回だけ書くことを表すのに対し、「書き詰める」は何回か書くことを表すため、(45)のように一回的な文脈では「書き込む」しか使えない。「通い詰める」も「書き詰める」と同じで何回か通うことを表す。

(44) 一枚の紙に恋人の名前を{書き込む/書き詰める}。

(45) 手帳に彼の電話番号を{書き込む/\*書き詰める}。

②「～込む」と「～詰める」は同じ「対象の状態変化」を表すが、「～込む」はその状態変化の過程に注目しているのに対し、「～詰める」はその状態変化の結果に注目している。例えば、(46)の「煮込む」は時間をかけて十分に煮ることによって「豆」が固い状態から柔らかい状態へ変化することを表し、「煮詰める」は時間をかけて煮汁のなくなるまで煮ることを表す。

(46) 豆をとろ火でゆっくり{煮込む/\*煮詰める}。

③「～込む」と「～詰める」は同じ「主体の状態変化」を表すが、「思い込む」は一つのことに集中してほかのことを考えないことを表すのに対し、「思い詰める」は気持ちが詰まって窒息しそうなことを表す。

(47) 私は君がくるものと{思い込んでいた/\*思い詰めていた}。

(48) 彼は一本気で、{\*思い込む/思い詰める}と自殺するかもしれない。

## 6. 「～入れる」の前項動詞の特徴

次に、「～入れる」の前項動詞について見る。「～入れる」のヒット数上位 30 語を示すと表 6のとおりになる。V1は主体の行為を表す動詞で、「V1+入れる」は対象をある領域へ移動させることを表す。

表6 「～入れる」のヒット数(上位 30 語)

|    | V1    | ヒット数      |    | V1     | ヒット数    |
|----|-------|-----------|----|--------|---------|
| 1  | 受け入れる | 5,710,000 | 16 | 流し入れる  | 235,200 |
| 2  | 取り入れる | 3,130,550 | 17 | 預け入れる  | 227,100 |
| 3  | 踏み入れる | 862,000   | 18 | 運び入れる  | 221,500 |
| 4  | 迎え入れる | 551,000   | 19 | 落とし入れる | 220,700 |
| 5  | 乗り入れる | 543,750   | 20 | 振り入れる  | 19,920  |
| 6  | 申し入れる | 354,140   | 21 | 割り入れる  | 19,680  |
| 7  | 聞き入れる | 321,000   | 22 | 溶き入れる  | 17,570  |
| 8  | 投げ入れる | 319,880   | 23 | 呼び入れる  | 16,620  |
| 9  | 借り入れる | 302,700   | 24 | 吹き入れる  | 14,860  |
| 10 | 差し入れる | 296,500   | 25 | 誘い入れる  | 14,430  |
| 11 | 引き入れる | 281,200   | 26 | 嵌め入れる  | 12,740  |
| 12 | 書き入れる | 275,000   | 27 | 溶かし入れる | 12,670  |
| 13 | 繰り入れる | 258,300   | 28 | 絞り入れる  | 12,420  |
| 14 | 買い入れる | 251,000   | 29 | 汲み入れる  | 11,850  |
| 15 | 雇い入れる | 249,400   | 30 | 叩き入れる  | 11,630  |

①V1が他動詞の場合、「V1+入れる」の形になると対象の内部移動を表す

(49) ボックスに新聞を投げ入れる。

(50) 箆筒に服を押し入れる。

(51) 意見を受け入れる。

(52) 本を買い入れる。

(49)～(50)は同じ対象の内部移動を表すが、(51)、(52)は対象が主体側から向こう側へ移動することを表し、(53)、(54)は対象が向こう側から主体側へ移動することを表す。

②V1が自動詞の場合、「V1+込む」は主体の移動を表す

(53) 彼は危険な場所に足を踏み入れる。

(54) 私は車に乗り入れる。

### 「～込む」と「～入れる」の相違点

「～込む」と「～入れる」は「ある領域へ移動する」という意味で共通するが、「～込む」が対象あるいは主体がある領域Xの中に移動して、領域Xに留めるということに焦点があるのに対し(図7)、「～入れる」は対象をある領域Xの中に移動させることに焦点がある(図8)。

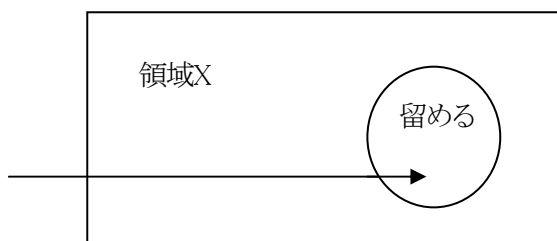


図7 内部移動を表す「～込む」



図8 内部移動を表す「～入れる」

例えば、「呼び入れる」は対象を単にある領域の中に入れるということを表すが、「呼び込む」はその移動領域の中に留まらせるという意味が強い。

(55) 部屋に友達を{\*呼び込む/呼び入れる}。

(56) 客を店に{呼び込む/\*呼び入れる}。

次の(57)は、同じ「対象が主体側に移動する」ことを表すが、「聞き込む」は主体である警察が話し相手に積極的に犯人に関する情報を「聞く」という動作を行うことを表すのに対し、「聞き入れる」は話し相手の話すことを受け入れることを表すという違いがある。したがって、(58)のような場合には「聞き入れる」の方が適切になる。

(57) 警察が犯人の足どりについて{聞き込んだ/\*聞き入れた}。

(58) 彼は私の説得を{\*聞き込んだ/聞き入れた}。

また、次の「買い込む」も「買い入れる」も同じく本を主体側に移動させることを表すが、「買い込む」は複数の本をどんどん買うことを表すのに対し、「買い入れる」は一回の行為を表すと点で違いがある。

(59) 本を{買い込む/買い入れる}。

(60) 一冊の本を{\*買い込む/買い入れる}。

## 7. まとめ

以上、本稿では同じ「内部への移動」を表す複合動詞「～込む」「～込める」「～詰める」「～入れる」の前項動詞の特徴を見た。今後はこれらの複合動詞と前項動詞の共起条件に関してさらに詳細な分析を行っていきたい。

### [参考文献]

姫野昌子(1999)『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房

松田文子(2004)『日本語複合動詞の習得研究—認知意味論による意味分析を通して』ひつじ書房

陳麗麗